



各地区の地域づくりセンターでは、人口減少、超少子高齢化社会へと変化していく時代に、「誰もが住み慣れた地域(家)で、安心して暮らし続ける」ことができるような地域が一体となって支える

仕組み「地域包括ケアシステム」の構築に向け取り組んでいます。波田地区では、この取り組みとして学習の場としての講演会とともに、3町会(3区、7区、26区)をモデル町会として、「地域の繋がり(集まり)」や「困りごと」についてのワークショップを開催しました。そこでは、地域の繋がりの場(集まり)が減り、人間関係が希薄になってきている。子供と接する機会が減り地域に活気がないなどの意見が出されました。また、高齢となり、自動車の免許を返納したら買い物や病院に行けない。核家族化により老々世帯や老人の単身世帯が増え、急病や火事など緊急時の対応等が心配との声も多く出され、ご近所に支援を求めてよいものか。と悩む声もありました。今後、地域で安心して暮らし続けるためには、「地域のつ

ながり」が大切であり、また、高齢化が進んでいく中では、元氣高齢者こそが地域を支え創っていく重要な財産となつてきます。そこで、波田地区では、目標を「元氣で活動する高齢者づくり」と、高齢者に感謝する人づくり」としています。皆で支え合い、そして感謝することが普通のことと思える波田地区となるよう、引き続き取り組みを進めてまいります。

今年(令和元)の4月当初は、それまでの気候とは一変、真冬の寒さに逆戻り、力一杯咲き誇っていた庭の梅花も綿帽子を被り、季節外れの雪に震えていた。光景を目にしました。しかしながら、季節は着実に春を運び、広がる扇波田の地は、緑のジュウタンに覆われ、心和ます花々はその美しさを競い合うまさに百花繚乱、素晴らしい季節となりました。日頃より地域住民の皆様には、公民館活動に温かいご支援、ご協力を賜っておりますこと、また各種スポーツ行事・文化活動・各種教室等々、多

くの皆様方にご参加いただいておりますこと、心より厚く御礼と感謝を申し上げます。この度、前古波田公民館長がご退任され、4月より公民館長に就任しました輪湖明と申します。皆様の笑顔・安心・生きがいづくりのお手伝いをさせていただきます。皆様の方々がより利用しやすい、集まりやすい公民館でありますよう、職員一同、全力を尽くし努力して参る決意です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

元号も新たに「令和元年」として5月より新時代の幕が切られました。皆様にも、また地域にとりましても、より幸多き時代であり続けてほしいと願うばかりです。さて、今日の社会環境の変化は劇的であり、超少子高齢社会や核家族の進行等々により、地域コミュニティ崩壊の危機的状況が危惧されております。こうした中で、人生100年時代が到来し「延びた人生をどのように生きますか」と私たちに問いかけられています。公民館はこうした問いかけに、様々な角度から「集いの場・学びの場・人と人をつなぐ結びの場」としての機能を充分に果たしていくと

館報 はた

スージーちゃん スイカワくん

令和元年5月1日現在

世帯数	6,185戸
人口	15,704人
男	7,580人
女	8,124人

共に、健康で心豊かな生きがいある地域づくりを目指し、より魅力ある内容の活動を住民の皆様と一緒に考え、共に学び実行していきたいと思ひます。また、「私たちの愛する地域は、私たちがつくる」といった自治意識をより高め、行政や各種団体との連携を密にし、協働しながら公民館活動を展開していくことが大切であると考えております。皆様方の変わらぬ、ご支援、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

令和元年度 波田公民館職員体制について

4月の人事異動に伴う波田公民館の職員体制は次のとおりとなります。

公民館長 輪湖 明
館長補佐 齋藤 真一
(波田支所長補佐と兼務)
主査 大月 美知
臨時職員 森 永理奈
臨時職員 吉澤 和枝

以上の体制で公民館業務を運営していきます。よろしくお願ひいたします。

今年(令和元)の4月当初は、それまでの気候とは一変、真冬の寒さに逆戻り、力一杯咲き誇っていた庭の梅花も綿帽子を被り、季節外れの雪に震えていた。光景を目にしました。しかしながら、季節は着実に春を運び、広がる扇波田の地は、緑のジュウタンに覆われ、心和ます花々はその美しさを競い合うまさに百花繚乱、素晴らしい季節となりました。日頃より地域住民の皆様には、公民館活動に温かいご支援、ご協力を賜っておりますこと、また各種スポーツ行事・文化活動・各種教室等々、多

くの皆様方にご参加いただいておりますこと、心より厚く御礼と感謝を申し上げます。この度、前古波田公民館長がご退任され、4月より公民館長に就任しました輪湖明と申します。皆様の笑顔・安心・生きがいづくりのお手伝いをさせていただきます。皆様の方々がより利用しやすい、集まりやすい公民館でありますよう、職員一同、全力を尽くし努力して参る決意です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

元号も新たに「令和元年」として5月より新時代の幕が切られました。皆様にも、また地域にとりましても、より幸多き時代であり続けてほしいと願うばかりです。さて、今日の社会環境の変化は劇的であり、超少子高齢社会や核家族の進行等々により、地域コミュニティ崩壊の危機的状況が危惧されております。こうした中で、人生100年時代が到来し「延びた人生をどのように生きますか」と私たちに問いかけられています。公民館はこうした問いかけに、様々な角度から「集いの場・学びの場・人と人をつなぐ結びの場」としての機能を充分に果たしていくと

共に、健康で心豊かな生きがいある地域づくりを目指し、より魅力ある内容の活動を住民の皆様と一緒に考え、共に学び実行していきたいと思ひます。また、「私たちの愛する地域は、私たちがつくる」といった自治意識をより高め、行政や各種団体との連携を密にし、協働しながら公民館活動を展開していくことが大切であると考えております。皆様方の変わらぬ、ご支援、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

令和元年度 波田公民館職員体制について

4月の人事異動に伴う波田公民館の職員体制は次のとおりとなります。

公民館長 輪湖 明
館長補佐 齋藤 真一
(波田支所長補佐と兼務)
主査 大月 美知
臨時職員 森 永理奈
臨時職員 吉澤 和枝

以上の体制で公民館業務を運営していきます。よろしくお願ひいたします。

公民館報は、主役である市民と市との協働による地域づくりを推進し、互いに助け合い、学び合い、安心して暮らせる持続可能な地域社会を実現するために、地域づくりを推進するための拠点として、市内35地区に地域づくりセンターが設置されました。

波田地区地域づくりセンター長 春宮充宏

波田地区地域づくりセンター長 春宮充宏

公民館報は、主役である市民と市との協働による地域づくりを推進し、互いに助け合い、学び合い、安心して暮らせる持続可能な地域社会を実現するために、地域づくりを推進するための拠点として、市内35地区に地域づくりセンターが設置されました。

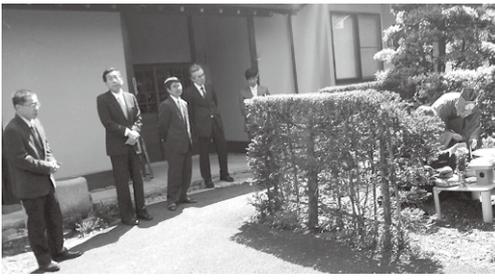


17区町会の春祭り



平成最後の春祭りが4月28日に行われました。祭事を行うには準備が必要です。まず、一週間前に神社の掃除をし、注連縄を作り当日新しくお飾りします。注連縄を作れる人も少なくなり、今年は講習会を開く予定です。年に一度の事なので継いでいく事は大変です。祭青年も熟年となり、今年は祭青年としての活動も終了となってしまいました。祭りを維持する為に、今年役員が袖を採りに山へも行きました。

お祭り当日は、お庚申様石碑前にて仏事を行い、盛泉寺住職様により、一年の無事と多幸を御祈祷していただきま



した。その後赤松神社に移り、神主の心生界教団那須活義様により御祈祷していただきました。今年度限りで神輿神前奉納をやめるといふ事で、神輿の魂抜きも併せて行いました。

その後分館に場所を移し、本年度の町会通常総会が開かれました。その後祝宴となり、用意されたお弁当や料理をいただきながら、久しぶりに会う人が、積もる話や雑談で、和やかな一時を過ごしました。終わりに、秋葉様次年度代参を、あみだくじで抽選し4名が決まりました。前町会長石川様による万歳三唱にて無事終了しました。

神輿を担ぐ、10代、20代、30代の若者が少なくなり時代の流れを感じずにはいられません。それも残念な事ではあります。が、また復活できる事を心より願います。

仁王尊 股くぐり祭 盛況に開催される！



「第32回、仁王尊股くぐり祭(実行委員会主催)が、4月20日(土)、4月21日(日)の日程で行われました。

上波田の仁王門にある県宝「木造金剛力士像」の股をくぐり、子ども達の健やかな成長を願う伝統の祭で、家族連れで賑わいました。普段は、閑散としている境内もこの時だけは子ども達の声で溢れていました。

両日とも、まずまずのお天気で、800人余りの子ども達が、股くぐりに挑戦しました。見上げると仁王像は、すごい迫力であり、赤ちゃんは思い切り泣きじゃくり、少し大きい子達は、平気でくぐり抜け、余裕のピースサインも。成長過程で、色々表現が違っていてもおもしろいです。上波田高齢者クラブの皆さま

んが、この祭の為に活動しています。心のこもった活動で祭を盛りたてています。

手作りの小物や、商工会では綿あめやゲーム、みはらし味の会では、漬物や氷餅などの販売もあり、名物の草餅も好評でした。

少し前に松本市美術館で企画された仏像展を見学に行つた時、この仁王像が最初に出迎えてくれました。いつもの狭い中に居ると違って、広い空間に佇んでいました。後ろに廻り背中を見ることができて、感激しました。

誇れる郷土の文化財である仁王像を大切に、このめづらしい祭をこれからも続けたいと思っています。



長野に来てもうすぐ二年が経ちます。こちらに来て

間もない頃、朝玄関を開けると、扉に袋がかかっています。中には採れたてのきゅうりとピーマンが！近所さんからのおすそわけでした。最初はびっくりしましたが、今では夏の楽しみです。また別のご近所さんは、畑に野菜が実ると、たくさん野菜を収穫させてくれます。甘いとうもろこしの見分け方やおいしい野菜の食べ方も教えてくれます。

最近、地域の方と話をしている、氷餅という食べ物を知りました。

「氷餅ってねえ、このあたりの食べ物で、冬の寒さがないとできないの。」

作り方や食べ方を丁寧に教えてくれました。そんな様子から、長野の環境を生かした郷土の味を大切に作る気持ち

が伝わってきました。地域の方とかかわる中で、人の温かさに触れたり、新たなことを知ったりすることは、とても新鮮で貴重なものです。これからも、そんな時間を大切にしながら、過ごしていきたいと思っています。